

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれあいの丘
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県志布志市志布志町1330番地
記入者名 (管理者)	井畑 清則
記入日	平成 21年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「介護される人もする人も共に生きられる地域社会を目指して」という理念のもと日々お世話をし行っている。職員も内容を理解し、地域密着型サービスの意義を確認している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々の業務の中で極力理念について、話をしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族の方へは、家族会時、面会に来られた際に触れ、理解が浸透しているが、地域への理解は当事業所が開園し、6年目を迎えるが確実とは言えない。年に1回秋祭り(敬老会)を開催し地域との交流を行って施設紹介をし掲示したりして啓発している。	○ 今後は秋祭り(敬老会)、事業所全体の行事だけではなく、グループホームと地域との催しができ地域との交流が図れればよいと思っています。実行出来たらよいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的に買い物などに出掛けており、お店の店員さんに声をかけたり、かけられたりしている。近隣の人達や、知人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。	○ もっと地域に出向き、地域の方に理解していただき、気軽に訪問してもらえよう考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	秋祭り(敬老会)を行って、地域住民の方々を呼んで催し物を行い、交流の場としている。	○ 地域で行われる行事にも積極的に参加していければと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員への研修への参加などは促しているが、地域への認知症ケアの啓発は確立されていないが、認知症ケアを学びたいと来られる方がいらっしゃったりするので、研修生として受け入れている。	○	管理者、職員は認知症の方に日々携わっているため認知症の方の理解は地域の方と比較したら理解している。管理者、職員は地域の方に認知症の方の理解を啓発していけたらと思います。
3. 理論を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は職員に伝えているし、管理者の自分も評価を行う意味、評価される意味は理解しているし、評価をどう活用するかも理解している。	○	自己評価をし、外部評価をされた事をもっと意味のある物に出来たら思う。真意に受け止め、改善に取り組んでいきたいと思う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に入り、運営会を9月24日に1回開催したところである。	○	今後のより良いホームの運営の為に、意見の交流の場として計画し実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会はあるんですが確立されていない。また経営者、管理者が話をしてもなかなか協力や連携を得る事が難しい部分がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事例がない為、部分的に理解を示している職員はいるが、全く理解していない職員もいる。そのためいざ必要な時に万全とはいえない。	○	管理者、職員共に学ばなければいけない事である。資料などを集め勉強会を行っていただければと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束改善委員会を設置し、話し合いを行っている。職員には委員会へ出席したリーダーが伝えるようにしている。又、日頃から機会があるごとに職員への理解浸透や厳守に向けた話をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修等の案内が来たら、参加するように促しているが、参加する職員はだいたい限られている。最低基準の職員の人数でローテーション勤務しているため、事業所外で研修がきても、職員の公休と重なったりし、なかなか私事があつたりと参加できない状況である。	○ 今後は運営者と話し合い、充分の職員の確保をしていただき研修という目的で勤務していただき、職員同士が交代で研修に行っていただき新しいもの(ケア)を学び、実践して頂くように努力したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームは大隅地区グループホーム連絡協議会に加盟しており、そこで開催される研修や交流会に参加し意見を交わし、認知症ケアの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より職員の顔色、声を聞き、悩みストレスを聞くように努力している。又、会社全体で互助会を立ち上げており、親睦会等行い交流の場を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者にホームの運営に関して一任しており、利用者、職員の事、ホームの事に関しては随時、密な報告を行って、指示を仰いでいる。幹部のみの運営会を毎月1回行っており、意見、要望等を述べ打診している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受け、まず最初の面談の時利用者本人の思い、気持ちを時間をかけ話を聞いている。それを持ち帰り、スタッフとカンファレンスを実施し、より良いサービスが提供出来るように努めている。又、本人から学んだり、支えてもらうこともある。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず相談を受け、家族が困っている事、悩んでいる事を最初の面談の際に聞くようにしている。又、認知症ケアのアドバイスを自分の出来る限り話し、家族の気持ちの軽減を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人や家族の意見を時間をかけ十分に聞き、必要と判断した時には、他の事業所と連携を取るようになっている。又、運営会で話をもちかけたりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員と利用者との信頼関係を得る為に、利用するにあたり、コミュニケーションはとっている。「挨拶から始まり挨拶に終わる」という言葉があるように、人と人として繋がれるよう努力している。又、家族に相談、助言など密な連絡を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いに耳を傾け、共感、理解し合える関係作りに努めている。本人から学んだり、支えあったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の言われたこと、行動された事で理解出来ないこと等又は、ホームでの生活はご家族に伝え、情報収集を行い共有し、出来るだけ同じ思いで支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、本人の思いを考えつつ、外泊、外出等を勧めたりはしている。又、ホームの催し物などご家族を誘ったりし、よりよい関係が継続するよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年未年始、お盆等はご本人の体調を伺いながらご家族に帰省を勧めている。又、併設している施設の知人のところへ遊びに行ったり、電話等し本人を取り巻く関係が途切れないよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人がホームでの他利用者との関係を把握し、個別に話をしたり、相談に乗ったりし、利用者1人1人が穏やかにホームで過ごせるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用のサービスが中止になった方、退居された方にはお礼文を出し、ホームに気軽に来ていただく様な文書の書き方をし、関係が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ケアの関わりの中で声をかけ、経過を把握している。本人が意思疎通、何か伝えたい事が困難な場合は家族や関係者から聞き情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームを利用になる前に調査を行い、本人、ご家族から既往歴、どういう性格の方なのか、どういう生活を送ってきたのか聞いている。又、どういう生き方をされてきたのか聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人の起床する時間から寝る時間があるように生活リズムを1人1人感じ取り、本人の生活の全体像を捉えている。	○	取り組み事実に記載した通りには行っていないが、1人、1人をもっと深くその人らしく生活して頂いてると言えば、出来ていない部分もあると思うので、少しでも共同生活の中1人1人が見出し、過ごして頂けるよう努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人やご家族の方には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるように努めている。職員全員、日頃より業務の中で意見交換、情報の共有をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了するまでには、見直しを行っている。職員、計画作成担当者が情報を共有、確認し、又ご本人、ご家族の意見を取り入れている。状況が変わったら随時見直ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等日々のホームでの生活、エピソードを記録している。いつでもスタッフが情報を確認出来るようにしている。又、連絡帳や申し送り表を活かし確認し把握出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族の状況に応じ、相談、助言等を行っている。又、併設の有料老人ホーム、ショートステイがどんなサービスが受けれるのか、どんな方が入居されるのか説明、紹介等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議委員に民生委員、市議会議員等入って頂き、意見交換の場を設けているが、なかなか連携は出来ない。又、その他の機関等との連携もなされていない。	○	地域密着型サービスの位置付けであるように、今後はただ近隣の方等に、ただ施設があるというニュアンスで受け止めて頂くのではなく、施設であって施設でないような近所付き合いのような関係が築けたらと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部の居宅支援事業所や他のグループホーム等、施設関係者、福祉従事者と関わりをもち、他のサービスが受けれるよう連携をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加していただき、ホームの現状等報告し、助言やアドバイス等頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される病院をかかりつけ医になって頂いている。受診は基本的にはご家族の方が一緒に行くようになっているが、連れて行けない場合は職員がご家族の代わりに行っている。又、ホームからご家族に行っていただけないかとご協力を貰う時もあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>認知症は早期発見、早期治療が有効だと言われています。今後、困難な事例等があるようであれば他の認知症サポート医等にも相談していこう思っている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄・水分チェック表を使用しており、利用者1人1人の排泄時間、回数等確認している。又、尿意、便意を自分で上手く表現が出来ない利用者の方にはチェック表を確認し、時間をみながら排泄を促し、誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯を職員、業務の都合で決めている事がある。	○	ある利用者が「今からお風呂ですか？あたしは夕方から」と言われた事がある。今後はこの事を言われた利用者に限らず出来る限り、利用者が入りたい時間、曜日等配慮し、心地よく入浴ができる様に心掛けたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時の、利用者の体調にもよりますが、日中は出来るだけ離床して頂き、フロアで過ごして頂き生活リズムが乱れないように心掛けている。又、1人1人が安心して休んで頂くように声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、利用者個々の特技を活かして頂いている。そば打ち、らっきょう漬け、梅干、踊りを踊ったり等昔の経験や知恵を発揮できる場所を提供している。又、職員が利用者から学んだ経験や知恵は感謝の気持ちを表している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者全員のお金は、事業所が預かっているが、外出、買い物等で本人が購入したい物等あったら本人にお金を渡し、支払いしてもらったりして少しでも社会性が維持出来るように努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気にもよりますが、良い日等は少しでも季節を感じてほしいので本人の希望にもよりますが外に散歩に出かけたり、日曜日には近場でドライブ等にお連れしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足で遠出に出かける時は、事前に計画を立てて職員の都合もありますが、出来る限り参加していただき、行っている。家族に協力依頼することもある。	○	開設より1泊旅行を行いたいと思っているが、なかなか計画までいたっていない状況で現実のものにならない。6年目も難しい状況である。来年こそは計画し、実行したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に気軽に電話し易い環境作り、雰囲気作りに努めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、兄弟、親戚、ご友人等お気軽に訪問出来るような雰囲気作りに努めている。面会時間も特に制限なく、面会者の都合の良い時間にいつでも来れるように配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束改善委員会を設置している。開催日時は随時、その都度必要があれば開催している状況である。又、マニュアル(手引き)を作り、職員へ日頃より機会があるごとに周知してもらうように話をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、利用者が自由に出入りが出来る様になっている。利用者がホームより外に出る際には、引き止めるのではなく、それとなく声をかけてみたり、邪魔にならないように付いて行く等し、安全面も考えながら、全面的に自由な暮らしが出来る様に取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜問わず、業務、記録等をしながら、目配り気配りしている。夜間帯は数時間ごとに巡視し、利用者の観察をするとともに、体動が頻繁な利用者にはすぐに対応出来るように居場所の工夫等行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は全て取り除くような事はしていない。注意をうながしたりし、利用者のケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、ヒヤリハット、事故報告書の記録をし、職員間の認識の共有を図っている。又、申し送りの中ではこんな事をされた、こんな行動をされた等具体的に話し、事故防止のため共有し、取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルや感染防止マニュアルを作成し、周知徹底している。又、フロア電話前に「119」を呼ぶ時の注意事項を掲示し落ち着いて迅速に事が進むように備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火訓練を行っている。1回(有)コンフィアンス全体で行い、1回は消防署の立会いのもとで行っている。	○	今後は部署ごとの防火訓練を行っていかねばならないと考えている。地域の方々の協力依頼も考えていかねばならないと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	少しでも本人が望む生活、ストレスを抱えて生活しないように送って頂いている。その上で具体的に家族にはお話をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っているし、普段の呼吸、表情、食欲、行動等は職員全員把握している。少しでも、普段と雰囲気が違うようであれば、バイタルチェックを行い、必要であれば協力医療機関への受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を台帳にはさんであり、何の薬なのか、何の薬を飲んでいるのかいつでも閲覧出来る様にしてある。又、誤薬を防ぐために、薬箱に名前を貼り、その利用者の薬はそこにしか入れない工夫をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事やおやつの際に食物繊維の多い食事を出したりして便秘の予防を心掛けたり、利用者によっては下剤、漢方薬等を使用し管理している。3日便が確認出来ない場合は看護師、医師に相談し、何らかの処置、指示を仰いでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者のADLに合わせ、口腔ケアを行っている。毎週水曜日、土曜日は入れ歯洗浄剤にて消毒を行っている。しかし、入れ歯洗浄をあまり好まない方には無理には行っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の元ではないが、利用者の体調や体重等に合わせ利用者と職員で話し合い、ご飯の量を少し減らしたり、おかずを1品減らしてみたりし、1人1人の状態に合わせている。又、その人の習慣に合わせて支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧出来る所に置いてある。又、その時期になると注意を促し、感染防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品等は、随時漂白などをし、清潔が保持出来る様に努めている。又、冷蔵庫の中は毎日見ており、賞味期限が切れた品は廃棄したり、冷凍が必要な食材は冷凍し、鮮度を保てるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から異臭がしないように芳香剤を使用したり、換気をしている。又、訪問者が来られたら、明るく挨拶をし、親近感がわくような話題づくりをしたりして工夫しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口のカウンター付近に季節の花を置いたりし、季節感を出している。又、利用者が好まれる音楽を流したりし、居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に動けるスペースを確保しており、ソファや簡易の畳を置けるようにして、思い思いに過ごせるようにしている。	○	今のままでも良いのだが、今後簡易の畳でなく畳のスペースで少し横になったり出来る空間があれば良いと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや、生活スタイルに合わせ、本人が居心地良く過ごせるように努めている。又、本人の要望を聞きベッドの位置やタンスの位置等、本人、家族や職員と話し合いをし使い勝手が良いようにしたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調、発汗の様子、冷え具合に注意しながら、冷暖房の調整を行っている。天気の良い日は換気等を行っている。換気扇は止める事無く終日動かしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同で使用するトイレ、浴室、洗面所等はかえれないが、利用者が使いやすいように工夫はしている。居室においては本人が使いやすいよう、又安全を考慮しながら、改善できるところはし、少しでも自立した生活が送れるように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者に合わせて、混乱や不安を招く様な原因を追求し、本人の不安材料を少しでも取り除けるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先、ウッドデッキに椅子を置いたり、車椅子の方にも外の空気や景色を楽しめるようにしている。又、ホーム周りは散歩が出来る様に舗装されており、時間がある日等はスタッフと一緒に散歩している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方への理解をご家族はじめ、地域の方々に発信し、啓発できるホームを目標に頑張っていきたい。